

# ダリアの抑制栽培技術

鈴木勝治・佐藤貴裕・遠藤幸子\*

(山形県置賜総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室

・\*山形県農業総合研究センター農業生産技術試験場)

Retarding Culture of Dahlia

Katsuji SUZUKI, Takahiro SATO, Sachiko ENDO\*

(Agricultural Technique Improvement Research Office, Okitama Area General Branch Administration Yamagata Prefectural Government, \*Department of Agro-production Science, Yamagata General Agricultural Research Center)

## 1 はじめに

切り花ダリアは、鮮やかで豪華な美しさがあることから、ブライダルやイベントの新商材として需要が高まっている。置賜地域は、中大輪系の切り花ダリアとしては先駆けの産地であり、年々生産量は増加している。しかし、出荷期間は露地栽培で生産できる9月～10月の秋出荷がほとんどであるため、市場からは、9月～10月の出荷だけでなく長期継続出荷できるよう強く要望されている。

このため、今回、置賜地域の主要な中大輪系ダリアの長期継続出荷とハウス栽培の技術開発に向けて、抑制栽培における最適な定植時期と収量及び、障害花の発生と加温温度、電照方法の関係について検討した。

## 2 試験方法

### (1) 定植時期の試験

1) 供試材料 中大輪系ダリア品種‘黒蝶’‘熱唱’

#### 2) 試験概要

2005年度は、パイプハウスにおいて地床で栽培した。栽植密度は畝間180cm、株間50cm、1条植えとした。なお、冬期間は二重カーテンで被覆し、ハウス内温度を最低10℃に加温した。

2007年度は栽植密度を2条千鳥植えに変え、11月までは最低温度15℃に加温し12月は5℃に変えて管理した。

また、電照は、2005年度は9月7日、2007年度は9月5日から2mの高さで10㎡当たり60w電球数2個の明るさで行い、4:30～18:30までの14時間の明期延長とした。

なお、2007年7月上旬定植区は購入苗、それ以外は、当室で挿し芽育苗した苗を供試した。また、施肥量はN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=2.1:1.6:1.8 (kg/a)とした。

#### 3) 試験区 定植時期

2005年度:7月29日、8月12日、8月26日

2007年度:6月15日、6月26日、7月6日

調査株数 各区3株

### (2) 電照方法の試験

1) 供試材料 中大輪系ダリア品種‘黒蝶’‘熱唱’

#### 2) 試験概要

2007年度、ガラスハウスにおいてピートモス主体の培養土と30Φポット(容量200)で試験を行った。7月6日に購入苗を定植し、ハウス内温度を最低10℃に加温して管理した。電照は、9月5日から2mの高さで10㎡当たり60w電球数2個とした。

#### 3) 試験区

13時間朝夕区 5:00～18:00まで明期13時間

14時間朝夕区 4:30～18:30まで明期14時間

14時間連続区 日没から20:00～21:00まで電照し明期14時間(日の出から計算)

14時間間欠区 日没から20:00～21:00まで電照し45分点灯-15分消灯の間欠電照による明期14時間(日の出から計算)

※電照処理:9/5～

調査株数 各区5株

### (3) 加温温度試験

1) 供試材料 中大輪系ダリア品種‘黒蝶’‘熱唱’

#### 2) 試験概要

2006年度はパイプハウスで地床栽培を行った。7月10日に畝間180cm、株間50cmの栽植距離で定植し、最低温度を10℃加温で栽培した。2007年度は、7月6日に定植した。

なお、電照は、2006年度は9月4日、2007年度は9月5日から2mの高さで10㎡当たり60w電球数2個の明るさで行い、4:30～18:30までの14時間の明期延長とした。施肥量はN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=2.1:1.6:1.8 (kg/a)とした。

3) 試験区 2007 年度

10℃区 (ガラス室ポット栽培、30cmΦポット (容量 200)、ピートモス主体の培養土利用、摘心 1 回 (7/12))  
 15℃区 (パイプハウス地床栽培、摘心 2 回 (7/12、7/26)、畝幅 180cm、株間 50cm<sup>2</sup> 条千鳥植え)  
 調査株数 各区 3 株

3 試験結果及び考察

(1) 定植時期の試験

置賜地域でハウス抑制栽培を行う場合、6 月下旬から 7 月上旬に定植すると 9 月中旬から良品を収穫できたが、7 月下旬以降の定植では収量が減少した (表 1)。なお、最低温度を 11 月まで 15℃に加温し、12 月は 5℃に下げ管理した場合の 12 月下旬までの株当たり商品収量は、7 月上旬定植区では‘黒蝶’が約 18 本、‘熱唱’は退色花が発生したことから約 13 本と少なかった (表 1)。

(2) 電照方法の試験

‘黒蝶’は 13 時間日長では露心花が発生し、14 時間

日長では発生しなかった。また、14 時間明期延長を、45 分間電照し 15 分間無電照の間欠方法とした場合でも露心花の発生はなかった (図 1)。一方、‘熱唱’では 13 時間日長でも露心花は発生しなかった (データ省略)。

(3) 加温試験

最低温度を 10℃とした場合、‘熱唱’は 11 月から奇形花や退色花の発生が見られたが、‘黒蝶’では退色花の発生は見られなかった (表 2、表 3)。

4 まとめ

ダリア‘黒蝶’及び‘熱唱’のハウス抑制栽培では、6 月下旬から 7 月上旬に定植すると、9 月中下旬から収穫が始まる。また、最低温度 15℃では 12 月下旬までに収穫できる商品収量は、‘黒蝶’が株当たり約 18 本、‘熱唱’が約 13 本である。

‘黒蝶’は 14 時間日長の間欠明期延長では露心花は発生しないが、13 時間日長では露心花が発生する。‘熱唱’は最低温度 10℃で奇形花や退色花が発生する。

表 1 収穫時期別商品収量

品種	実施年度	定植時期 (月/日)	収穫開始日 (月/日)	切花本数 (本/株)	商品収量(本/株)					商品率 合計 (%)		
					9月	10月	11月	12月	1月			
‘熱唱’	2005	7/29	10/12	11.8		3.0	1.2	2.0	0.0	6.2	53	
		8/12	11/7	7.0				3.4	0.4	3.8	54	
		8/29	11/7	7.0				0.6	0.0	0.6	9	
‘黒蝶’	2007	7/6	9/20	16.5	0.9	6.3	6.0	0.1		13.3	81	
		2005	7/29	10/14	11.6		3.4	1.0	4.0	2.2	10.6	91
		8/12	10/31	4.4		0.2	1.6	2.2	0.2	4.2	95	
‘黒蝶’	2007	8/29	11/11	3.4			1.4	1.6	0.2	3.2	94	
		6/15	9/11	21.2	3.9	3.1	2.5	6.8		16.3	77	
		6/26	9/11	22.6	0.8	3.7	8.1	4.3		16.9	75	
‘黒蝶’	2007	7/6	9/21	19.0	2.2	6.2	4.7	5.2		18.3	96	

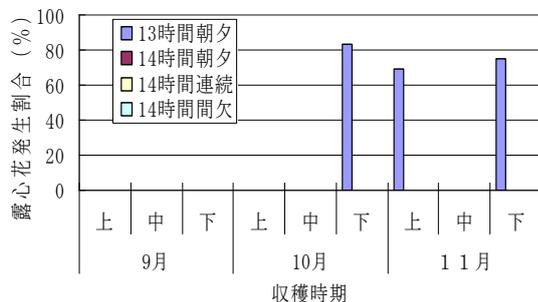


図 1 電照方法別露心花の発生(2007 年 ‘黒蝶’)

表 2 収穫時期別開花の状況 (2006年 ‘熱唱’ 10℃)

収穫時期	開花状況 (%)			
	正常 (赤色)	露心	奇形	退色 (橙色)
11月	中旬	100	0	0
	下旬	41	0	59
12月	中旬	17	0	83
	下旬	0	0	100
1月	中旬	8	0	92
	下旬	0	0	100

表 3 加温温度別収量及び開花状況 (2007年) (11月までの収量)

供試品種	試験区	商品本数 (本/株)	開花状況			
			正常	露心	奇形	退色
‘熱唱’	10℃	11.0	82%	0%	13%	13%
	15℃	13.9	97%	0%	3%	0%
‘黒蝶’	10℃	6.8	100%	0%	0%	0%
	15℃	13.8	100%	0%	0%	0%